平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月13日

上場会社名　ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社　　上場取引所　大
コード番号　6819　URL　http://www.social-eco.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 守谷　隆志
問合せ先責任者 (役職名) ー　(氏名) ー　TEL 03-5786-3900

四半期報告書提出予定日　平成24年8月14日
配当支払開始予定日　ー
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	449	7.3	△41	―	△43	―	△36	―
24年3月期第1四半期	418	△16.9	△21	―	△23	―	△13	―

(注)包括利益　25年3月期第1四半期　△33百万円 (―%)　24年3月期第1四半期　△32百万円 (―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	△1.69	―
24年3月期第1四半期	△0.63	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	1,066	95	8.9
24年3月期	1,140	129	11.3

(参考) 自己資本　25年3月期第1四半期　95百万円　24年3月期　129百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	0.00	―	0.00	―
25年3月期	―				
25年3月期(予想)		0.00	―	0.00	―

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,606	34.4	30	△29.6	30	△41.4	29	△36.8	1.35
通期	2,192	4.3	△19	―	△19	―	△21	―	△0.98

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	21,496,537 株	24年3月期	21,496,537 株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	17,233 株	24年3月期	17,123 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	21,479,382 株	24年3月期1Q	21,480,533 株

当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行いましたが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「経営成績に関する分析」をご覧ください。
・当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(及び当期)純利益金額を算定しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……3
２．サマリー情報(その他)に関する事項 ……4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……4
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 ……5
４．四半期連結財務諸表 ……6
（１）四半期連結貸借対照表 ……6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……8
四半期連結損益計算書 ……8
四半期連結包括利益計算書 ……9
（３）継続企業の前提に関する注記 ……10
（４）セグメント情報等 ……11
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……12
（６）重要な後発事象 ……12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期累計期間におけるわが国経済は、平成23年３月11日に発生した東日本大震災の復興需要等を背景に緩やかな回復基調となってまいりました。一方、欧州財政不安問題に対する懸念や国内の電力供給問題の制約等が影響し、依然として先行きに不透明感が続いております。

このような状況下、当社が展開するレジャー事業におきましては、ゴールデンウィーク後半の天候不順の影響はあったものの、集客数及び売上高とも前年とほぼ同水準で推移しております。

映像・音盤関連事業におきましては、広告業界が依然として低迷しているため、連結子会社である株式会社FLACOCOは、営業損失を計上しております。

投資事業においては、引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。

以上の結果、当第１四半期累計期間は、売上高４億49百万円（前年同四半期に比べ7.3％増）、営業損失41百万円（前年同四半期は営業損失21百万円）、経常損失43百万円（前年同四半期は経常損失23百万円）、四半期純損失36百万円（前年同四半期は四半期純損失13百万円）となりました。

当第１四半期の概況を部門別に示すと、次のとおりであります。

（レジャー事業）

レジャー事業につきましては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する伊豆シャボテン公園では「ハシビロコウ“ビルくん”来園30周年記念イベント」、伊豆ぐらんぱる公園では新アトラクション「GPS 探知機を活用した謎解き探検アトラクション「伊豆ぐらんぱる探検隊 トレジャーハント」を開始し、伊豆四季の花公園では「第６回城ヶ崎あじさいまつり」を開催し、大変ご好評をいただきました。

この結果、レジャー事業においては、売上高４億38百万円、営業損失20百万円となりました。

（映像・音盤関連事業）

映像・音盤関連事業につきましては、株式会社FLACOCOによるCM制作による売上や当社グループが保有するコンテンツの二次使用による版権収入がありました。当第１四半期における映像・音盤関連事業における営業損失は、広告業界の低迷の影響から、当社の子会社である株式会社FLACOCOの売上が減少したことが影響しております。

この結果、映像・音盤関連事業においては、売上高10百万円、営業損失21百万円となりました。

（投資事業）

投資事業につきましては、具体的な投資案件はありませんでした。

この結果、投資事業においては、売上高はありませんでした。

（その他）

その他の事業につきましては、売上高０百万円、営業利益３百万円となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて73百万円減少し、２億22百万円となりました。これは主として、現金及び預金が１億16百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて０百万円増加し、８億43百万円となりました。

この結果として、資産合計は前連結会計年度末に比べて73百万円減少し、10億66百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて43百万円減少し、７億51百万円となりました。これは主として、短期借入金が38百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて３百万円増加し、２億19百万円となりました。これは主として退職給付引当金が３百万円増加したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて39百万円減少し、９億71百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、95百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の11.3％から8.9％となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年５月11日に発表しました平成25年３月期第２四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきまして、現時点での変更はありません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

１　一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第１四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

２　固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度の減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

１　税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第１四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成23年３月期に引続きまして、平成24年３月期におきましても営業損失20,789千円となっております。また、当第１四半期連結会計期間においても営業損失41,077千円、経常損失43,692千円、四半期純損失36,387千円を計上しております。

平成25年３月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様がご満足し、今後もご来園していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマに話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充やアトラクションの新設などを図っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めながら、新規事業への投資を検討するとともに、既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施のため、経費・人材配置の見直しなど、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものであると考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成24年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	220,039	103,451
売掛金	5,028	16,835
未収入金	11,065	17,000
商品等	13,394	13,650
短期貸付金	－	20,000
その他	48,742	54,424
貸倒引当金	△1,526	△2,467
流動資産合計	296,745	222,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	402,400	403,024
土地	270,252	270,252
その他	70,886	70,020
有形固定資産合計	743,539	743,297
無形固定資産		
のれん	122	－
無形固定資産合計	122	－
投資その他の資産		
投資有価証券	76,987	79,505
長期貸付金	25,680	25,050
長期化営業債権	96,205	96,205
破産更生債権等	2,466	2,466
その他	20,433	18,280
貸倒引当金	△121,851	△121,221
投資その他の資産合計	99,920	100,286
固定資産合計	843,582	843,583
資産合計	1,140,328	1,066,478

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (平成24年６月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	66,404	62,446
短期借入金	170,002	131,028
未払金	462,716	446,262
前受金	11,042	18,843
預り金	10,371	10,222
未払法人税等	7,992	2,692
賞与引当金	27,063	36,368
債務保証損失引当金	20,000	20,000
事業構造改善引当金	15,600	15,000
その他	3,938	8,981
流動負債合計	795,130	751,844
固定負債		
退職給付引当金	174,420	177,922
その他	41,580	41,390
固定負債合計	216,000	219,312
負債合計	1,011,131	971,157
純資産の部		
株主資本		
資本金	268,591	268,591
利益剰余金	△116,996	△153,427
自己株式	△13,281	△13,244
株主資本合計	138,313	101,920
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△9,296	△6,778
その他の包括利益累計額合計	△9,296	△6,778
新株予約権	180	180
純資産合計	129,197	95,321
負債純資産合計	1,140,328	1,066,478

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）
売上高	418,922	449,637
売上原価	163,434	184,653
売上総利益	255,487	264,983
販売費及び一般管理費	277,054	306,060
営業損失（△）	△21,566	△41,077
営業外収益		
受取利息	139	106
その他	2,876	4,382
営業外収益合計	3,016	4,489
営業外費用		
支払利息	121	555
為替差損	4,646	6,547
その他	0	0
営業外費用合計	4,768	7,103
経常損失（△）	△23,318	△43,692
特別利益		
新株予約権戻入益	3,267	－
債務免除益	－	7,802
関係会社株式売却益	2,850	－
特別利益合計	6,117	7,802
特別損失		
減損損失	－	43
特別損失合計	－	43
税金等調整前四半期純損失（△）	△17,201	△35,933
法人税、住民税及び事業税	351	454
法人税等合計	351	454
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△17,552	△36,387
少数株主損失（△）	△4,109	－
四半期純損失（△）	△13,443	△36,387

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△17,552	△36,387
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15,043	2,517
その他の包括利益合計	△15,043	2,517
四半期包括利益	△32,596	△33,869
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△28,487	△33,869
少数株主に係る四半期包括利益	△4,109	－

（３）継続企業の前提に関する注記

当第１四半期連結会計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日）

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成23年３月期に引続きまして、平成24年３月期におきましても営業損失20,789千円となっております。また、当第１四半期連結会計期間においても営業損失41,077千円、経常損失43,692千円、四半期純損失36,387千円を計上しております。

平成25年３月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様がご満足し、今後もご来園していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマに話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充やアトラクションの新設などを図っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めながら、新規事業への投資を検討するとともに、既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施のため、経費・人材配置の見直しなど、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものであると考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

（4）セグメント情報等

【セグメント情報】

Ⅰ 前第１四半期連結累計期間(自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	レジャー事業	映像・音盤関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	406,603	12,318	―	418,922	―	418,922	―	418,922
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	300	28,571	28,871	8,571	37,442	△37,442	―
計	406,603	12,618	28,571	447,793	8,571	456,365	△37,442	418,922
セグメント利益（△損失）	△37,620	△13,577	21,366	△29,831	6,765	△23,066	1,500	△21,566

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
２．セグメント利益の調整額1,500千円は、セグメント間取引消去であります。
３．セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

Ⅱ 当第１四半期連結累計期間(自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	レジャー事業	映像・音盤関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	438,339	10,898	―	449,238	398	449,637	―	449,637
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,429	―	28,571	30,001	8,571	38,572	△38,572	―
計	439,769	10,898	28,571	479,239	8,970	488,209	△38,572	449,637
セグメント利益（△損失）	△20,254	△21,518	△2	△44,357	3,279	△41,077	―	△41,077

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
２．売上高の調整額△38,572千円は、セグメント間取引消去であります。
３．セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

前述のサマリー情報（注記事項）に関する事項に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却費の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）重要な後発事象

１．平成24年８月９日に静岡地方裁判所沼津支部より、株式会社ケプラムを申立債権者とした当社子会社の株式会社サボテンパークアンドリゾート（以下「ＳＰＲ社」という）が保有する伊豆シャボテン公園・伊豆ぐらぱる公園等の土地の賃料債権に対する平成24年８月７日付債権差押命令を受領いたしました。

ＳＰＲ社は、今般の債権差押及び競売の不当・不法性が明らかであると認識しており、引き続き、裁判においてＳＰＲ社の正当性を主張してまいります。

２．当社子会社であるＳＰＲ社は、平成24年10月１日を効力発生日として、ＳＰＲ社の営む伊豆四季の花公園及び伊豆海洋公園ダイビングセンターの施設運営事業（以下「本件事業」という）を会社分割（新設分割）し、その事業を新設する株式会社伊豆四季の花・海洋公園（以下「新設会社」という）に承継することを臨時株主総会において決定いたしました。

（１）会社分割の目的

ＳＰＲ社が展開する本件事業を会社分割し、新設会社に承継することにより、事業環境の変化に応じた適正な事業構造を構築し、経営意思決定の迅速化や多様化する顧客ニーズに応えるサービスの提供を図り、収益の最大化を目指すことを目的としています。

（２） 会社分割の要旨

① 会社分割の日程

分割計画書に係る承認取締役会 平成24年８月13日

分割計画書に係る分割会社の承認臨時株主総会 平成24年８月13日

分割期日（効力発生日） 平成24年10月１日（予定）

② 分割方法

ＳＰＲ社を分割会社とし、株式会社伊豆四季の花・海洋公園を新設会社とし設立する新設分割です。

③ 株式の割当て

新設会社が本件分割に際して発行する株式は２００株であり、全ての株式をＳＰＲ社に割当交付します。

④ 分割により減少する資本金等

本件分割よるＳＰＲ社の資本金等の変動はありません。

⑤ 新設会社が承継する権利義務

新設会社は、本件事業に属する資産又は負債等の権利義務（但し、雇用契約は除く）を承継いたします。なお、本件分割により新設会社が承継する債務は、免責的債務引受の方法により承継するものといたします。

⑥ 債務履行の見込み

本件分割において、ＳＰＲ社及び新設会社の負担すべき債務につきましては、履行の見込みに問題がないと判断しております。

（３）分割当時会社の概要

	分割会社 （平成24年３月31日現在）	新設会社 （平成24年10月1日予定）
１．商号	株式会社サボテンパークアンドリゾート	株式会社伊豆四季の花・海洋公園
２．本店所在地	静岡県伊東市	静岡県伊東市
３．代表者の役職・氏名	代表取締役社長　籠池　賢二	代表取締役社長　籠池　賢二
４．主な事業内容	伊豆シャボテン公園、伊豆ぐらんぱる公園、伊豆高原旅の駅ぐらんぱるぽーと、伊豆四季の花公園及び伊豆海洋公園ダイビングセンターの施設運営事業及びこれに付帯する事業の経営	伊豆四季の花公園、海洋公園及びこれに付帯する事業の経営
５．資本金	5,000万円	2,632万円（予定）
６．設立年月日	平成16年11月12日	平成24年10月1日
７．発行済株式数	9,200株	200株
８．決算期	３月期	３月期
９．大株主及び持株比率	ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社　100%保有	株式会社サボテンパークアンドリゾート100%保有
10.純資産	△134百万円	52百万円（予定）
11.総資産	837百万円	93百万円(予定)
12.従業員数	93人	０人（予定）

（４）分割する事業の概要

伊豆四季の花公園及び伊豆海洋公園ダイビングセンターの施設運営事業

（５）会社分割後の状況

分割会社であるＳＰＲ社の商号、事業内容、本店所在地、代表者、資本金、決算期については、本件分割による変更はありません。